

3月29日 フジテレビ報道局 [「他人のiPS細胞で網膜移植」](#)

重い目の病気の患者に、他人のiPS細胞から作った網膜色素上皮細胞を移植する手術が、世界で初めて、兵庫・神戸市内の病院で行われた。他人のiPS細胞を使った移植手術は、神戸市内の病院で、兵庫県に住む60代の男性患者に対して行われた。

男性は、「滲出(しんしゅつ)型加齢黄斑変性」という、視力が低下する難病を患っていて、拒絶反応が起きにくい、特殊な型の人から血液から網膜のiPS細胞を作り、男性の右目に移植したという。

今回の手術は、他人のiPS細胞を使った移植の安全性などを確認する臨床研究の一部で、患者本人の細胞を使用する場合と比べて、費用も準備時間も抑えられるという。理化学研究所の高橋政代プロジェクトリーダーは、「手術だけではなく、そのあとの拒絶反応がどうかというのが非常に重要」と話した。研究チームは、さらに5人以上の患者に同様の手術を行い、2~3年後に結果を公表する方針。

([滲出性加齢黄斑変性についてはこちら](#)を読んでください。)